

### 3/17 富士山観望会

3月17日。富士山二合目粟倉で開催された丹沢星の会定例観望会に行ってきました。

17時過ぎに現地に到着。丹星としては一番乗りでしたが、同じ場所で Ninja ユーザーを主とした集いがあり、そちらの方は既に10人近く集まっていたのかな。

徐々に参加メンバーも到着し機材の設置を始めたいところだが、クマの到着直後から小雪が降り始めており、さすがにこれでは機材は設置できない。事前の天気予報では晴れだったのに、どうやら富士山周辺にだけ低気圧が居座っているらしい。🌨



Photo by うらしまさん

到着直後の記念撮影。

しばらくたってもやむ気配すらなく、場内も徐々に冷え込みが厳しくなってきたので全員各々の車で待機モードとなる。

21時過ぎ、参加を表明していた最後のメンバーが到着したのを契機に、東屋のある西臼塚公園に揃って移動。屋根の下で今シーズンここまで一度もやる機会がなかったアストロ鍋をやるとういう目論見です。🍲

丹星のアストロ鍋は具材を各メンバーからの一品持ち寄りを原則としているが、今回は幹事役のヒデアキさんより鮭の大量持ち込み宣言があったので石狩鍋をやる事になった。



Photo by クマ

クマが味噌と野菜類、他にもカキ、うどん、キムチ、デザート類といろいろ集まり、例によって豪華鍋の予感です。

新調したばかりの鍋による石狩鍋の出来上がり。

**美味でした！**

23時頃から天頂付近にポツポツと星が見え始め、鍋を完食した夜半頃には北～北西側を除いて晴れ間が広がってきたので、全員揃って再び粟倉に移動する事になった。

粟倉に到着すると、何と全天快晴の空となっており、3台に減った Ninja 軍団も機材の設置を始め

ていた。西臼塚からは直線距離で2km位しか離れていないのにこの空の差とは。やはり西臼塚近くの人エスキー場の影響なんだろうなあ。

夜半も過ぎて生活光が減った事もあり空の透明度もかなり高く、方角によっては星の瞬きがやや気にはなったが、ここ粟倉にしてはかなり上級の空でした。



Photo by クマ

クマの **GOTO8 cmセミアポ** 重星専用の筒です。

先月の双眼鏡は別として、今年初めて観望会に持ち込んだ機材となった。

おとなりは **C8** で観望中のうらしまさん。方角から見てしし座辺りを狙ってるのかな？

ここ 1 週間ほど寒の戻りによる冷え込みが厳しくなっており、当然シンチレーションもボロボロであろうと見込んで当日選択したのがこの筒。積み込みの際 Schwarz150 とどちらにするか迷ったんだけど、まだ冷え込みが厳しいこの時期はハンドリングを考えると少しでも体力を温存したくなるのだ。場内一の小口径ではあったが、 $\times 200$  以上が安定して使えたのは F15 の成せるワザだろう。

この筒を持ち込むと決めた時点で今夜は重星に的を絞っており、当初の予定から観望タイムが大幅に短縮されたおかげで、冬の対象はほとんど見る事が出来なかったが、薄明までの間に 30 個ほどの対象を倍率を変えたりしながらじっくりと見る事が出来た。

ホントは久し振りにメシエマラソンでもやるかと考えてもみたけど、結果論だけ tonight の空では正解だったのかも。



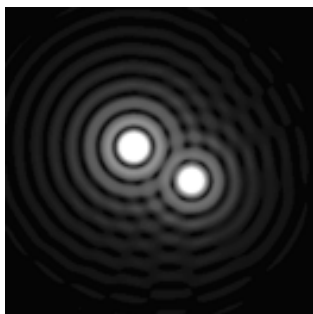
Photo By クマ

観望中の yujin さん。

寒い中ではるばるお越しいただきました。

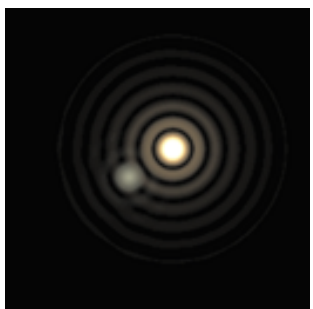
次回は是非ご家族揃って来て下さいな。

少しだけ主な重星のインプレをば。



・  $\alpha$  Gem ふたご座  $\alpha$  星カストル

ほとんど地平線に沈むスレスレだったが、Panoptic19 mm  $\times$  63 でもしっかり分離して見える。Radian6 mm  $\times$  200 まで上げると回折リングが大暴れしていた。



・  $\epsilon$  Hya うみへび座  $\epsilon$  星

RA:8h47m00s Dec:+6.4° Mag:3.38-6.48 Sep:2.9"

華やかな冬の星座と春の星座の季節の合間に輝く重星。

光度差が大きくて結構難物だけどしっかり分離を確認。やや赤みの入った黄と青のコントラストが今宵もキレイでした。

・  $\Sigma$  1659 Stargate 以前にも紹介した特徴的なアステリズム。スモールトライアングル中の一番暗い星は 12.3 等星で 8cm の限界等級を超えるけど、透明度の良い空のおかげでシーイングの合間にはそらし目をせずともハッキリと見る事が出来た。

・  $\epsilon$  Lyr 有名な「**本家ダブルダブル**」です。

夏はこの星の見え方でシーイングの目安を付ける事が多く、多くの重星の中でもこれまでに観た回数としては五指に入る星だろう。

クマが過去この星の分離を確認できた最低倍率のレコードが、FS102+Nagler4-12 mmの組み合わせで見た  $\times$  68.3。場所は自宅玄関前だったが、当時の記録を読むと「**重星屋にとって至福の一夜となった**」と記してあった。

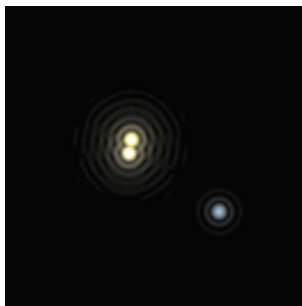
今回、8cm セミアポでその記録にどこまで迫る事ができるか試してみた。

- ・Nagler4-12 mm( $\times$  100) 余裕で分離。
- ・Panoptic15 mm( $\times$  80) 何とか分離が確認できるが、シーイングが悪いとアウトだろう。
- ・Swarovski15.4 mm( $\times$  77.9) 何とか確認。PO15 mmよりも見易く光学系の差が表れたか。
- ・TV-Plossl17 mm( $\times$  70.6)  $\epsilon$  1 がアウト。

うーん、どうやらこの辺が限界みたい。

仲間にも見てもらったが、スワロの時点で  $\epsilon$  2 は OK、 $\epsilon$  1 は楕円まで、という声が聞かれた。 $\epsilon$  1-2.6"  $\epsilon$  2-2.3" と角距離は  $\epsilon$  1 の方がやや離れているけど、 $\epsilon$  1 の方は不等光重星のためか難易度が高いようです。角距離が限界ギリギリの場合、普段から重星を見慣れていないと分離の確認は難しいかもしれないですね。

以前別の星仲間の方から、TV85+Radian10 mm(×60)の組み合わせで分離が確認できた、と聞いていたので、次回再チャレンジしてみたいな。



・  $\xi$  Sco+  $\Sigma$  1999 さそり座のダブルダブル。

RA:16h04m00s Dec:-11.4°

$\xi$  Sco はご覧のように三重星だが、A-B は 0.91" でかなりの難物。さそり座北部にあるこの  $\xi$  星と  $\Sigma$  1999 が並んでダブルダブルを形成しています。各々の角距離も 7.6" 11.8" あり、本家よりはずっと見易いので万人向きの対象です。

ついでに近くのアンタレスや木星を見てみたが、低空はシーイングも酷くて姿もボロボロ。仲間の機材でも木星を見せてもらったが、縞すらまともに見えない。今年の木星は公転軌道の中で最も低緯度に位置するだけに、見え方はあまり期待できないかも。

明け方には富士山周辺に寒気が入り込んだおかげで冷え込みも相当なものとなり、明け方の気温は-6°Cまで下がった。

夜半前と寒暖の差も大きく、明け方には愛車もこんな状態。



Photo By クマ



Photo By うらしまさん

最後まで残った仲間たちと夜明けの恒例となったヒデアキさんのコーヒーをいただき、6 時過ぎに揃って撤収、解散となりました。

それにしても晴れてよかった！ でなきゃただの鍋の会だもんなあ。

了